



善正寺だより

〒512-0902

三重県四日市市

小杉町1014

浄土真宗

本願寺派

善正寺

TEL:0593-31-1670

TEL:0593-32-0733

掲示板法話

慢心が闇をつくる

柔軟心が共生の道をひらく



「いま、若者世代の間で、戦争が起こればいい、と本気で思っている人が増えている」という話を聞かされました。すなわち、「戦争が起これば、すべての秩序が崩壊する。ならば、浮かび上がるチャンスだ」というのです。ニート、フリーター数が増加し続ける中で、社会の閉塞感と戦争願望は通り魔事件などと根づいたところ共通していることがうかがわれます。それほどに若者世代の心の闇は深いのです。

その裏側で、大人世代の心の闇もまた深いものがあります。「時代が違う」「話が通じない」「何を考えているのか、さっぱりわからない」等々。

この時代の闇に対して、よく仏教の出版ですが、と叱咤激励されます。しかし、苦しみの真相を充分理解もせず、ありきたりのお話が簡単に通用するとはとても思えません。教えに学び、よき先輩に学ぶしかありません。

作家の高史明先生は、十二歳の一人息子を亡くされました。自死の直前、息子さんが夏目漱石の『こころ』という小説を懸命に読んでいたそうです。先生自身もその小説のことを知っていま

したから、『こころ』は名作だからゆっくり味わって読みなさい」と言ったが、それが悔やまれてならないと自責の念に駆られたのでした。なまじつか「知っている」という慢心が息子の苦悩に寄り添う機会を失わせたからです。「君はどうして夢中になってこの本を読んでいるの?」などと尋ねていたら息子は何か悩みを打ち明けてくれたかもしれないなかつた、と思うからです。『こころ』の主人公は自殺するのです。先生の求道はそこから始まりました。

「縁にふれて、親鸞聖人の語録が書かれた『歎異抄』に出遇います。聖人と唯円坊の問答が記されている第9章に目を開かれたというのです。

唯円さんが「念仏しても躍り上がるほどの喜びが湧いてきません。また、お浄土に参りたいという心もありません。これはどうしたことでしょうか?」とお尋ねになったとき、「親鸞もそのような疑問をもっていたのですが、唯円坊、あなたも同じことを考えていたのですね」とお答えになったのです。師匠と弟子という立場、垣根が取り払われ、共感の上に信頼感も問答も深まったのです。

☆行事ご案内☆

門信徒会例会

10月19日(日)夜7時半

- ① 五木寛之「親鸞」新聞連載の今日的意味を探る。
- ② 意識「仏説阿弥陀経」の唱和練習と解説。

♪三重組コーラス♪

※10月8日(水)am 10時半・陽光苑誕生会慰問

※10/25(土)夜7時半練習

※11/3(月)午後1時。菟野・光了寺(報)

※11/15(土)夜6時半 智積・西勝寺「灯の集い」

※11/22(土)京都「御堂演奏会」6回目

バス席余裕あり付き添い参加OK。出発8時半小杉9時桜

◇キッズサンガ10月4日(土)4時お経、紙芝居、ゲーム等

◇一縁会テレホン法話 11冊目の本『逃げたらあかん』発売中
059-354-1454へお電話を。3分間の法話が流れます

善正寺ホームページ 三重 善正寺で検索可

アドレス <http://www.mie-zenshoji.com/> 『新着情報』注目!

「住職と坊守のつれづれ日記」おススメ! ほぼ毎日更新

高先生は「知っている」という慢心が原因で息子の悩みにより添えなかつた」と詫び、念仏の教えに触れたのでした。

我々の心の闇は、「知ってるつもり」という高上がりの気持が作り出しているのです。我が知識や成功体験が障害となつてホンネの対話を妨げていることがわかります。仏教の教えに遇うと、人間の限界が知らされ、謙虚さと柔軟な心が育てられます。異なる考えにも耳を傾ける柔軟な心が芽生えてこそ、共に手を取り合つて生きる道が生まれるのでしようね。

キッズサンガ・杉の子合唱団
◇十月四日(土)午後四時より
子供向けのお経、ゲーム、お菓子等

コーラスにも陽光苑慰問にも研修にも皆出席の川崎孝一さんは遊び心の達人。垣根に朝顔を育て、八月末には念願の朝顔の門が完成! 念ずれば花開く!



遊び心の達人・朝顔の門完成!

坊守スケッチ

「仏に成る」とは成長する自己変革

何か小難しいタイトルでお許し下さい。私の浅い受け取り方で恐縮ですが、心に満ちた喜びを、誰かに伝えたくて、敢えて取り上げました。

先日、高田本山の講演会で、元龍谷大学学長の信楽峻磨先生のお話を聞きました。私には「眼からウロコ」の内容、心の底にストンと落ちるような感慨を味わいました。

先生は『仏に成る』とは、普通死んだ人のことを言う場合が多いが、決して死後の世界のことではない。阿弥陀仏は私達一人一人の心の中にいる。お念仏を唱えることで、心が澄み何かが見えてくる。それが『めざめ』体験であり、新しい人格へと変容する。これを信心の人という。信心にはしるし(徴)がある。このしるしを生きよ」と説かれました。

「ああそうか、誰しも仏に成るべき種がいのちの中に備わっているのだ。チヨウが幼虫からサナギに、そして本物のチヨウへと脱皮を繰り返して生まれ変わるように、私達も生まれまたまのヒトから、仏に成るべき身に変容する新しい自分に、自己変革すればいいのだ」そう思うと嬉しくなりました。それでは『脱皮』はどのような時にできるのでしょうか？

一般的に、人は順調な時には、つい有頂天になって、本当の自分の姿を見

失いがちです。

逆境の時こそ、自分の無力な姿を知らされ、周囲のおかけがみえてきます。その時こそ『脱皮時』です。逆境の原因を他に求めて、自己責任を問わなければ、それでおしまい。固い殻の中で、不平・不満・愚痴の連続でしょう。

一方、苦難の壁が行く手を阻んだ時「この壁は自分が生まれ変わるための必然の壁なのだ」と受け止めることができたなら、仏に成る身に一步近づけた『しるし』です。

私の脱皮時はいつだったのか考えてみました。先ず在家から寺に嫁いだこと、相次ぐ住職の面親の見送り、僧侶資格の取得、寺報発行、実母の介護等です。深刻に考えずに乗り越えましたが、元来マイナスをプラスに転じる心のスイッチを、阿弥陀様から戴いているのですから、これから先も、何がきても大丈夫ではないかと思えます。

ところで別の法座で、ある人が「浄土真宗は『お救いが先』だと聞いているが、どうせ救われるならば、仏法など聞かなくてもいいのではないか？」と質問されました。このことにも信楽先生は「薬あるからと言って、毒を好んではいけない。どうせ死ぬのだからと言って、好き勝手に生きてよいのではない」と、きっぱり説かれました。たった一度の人生、空しく過ぎるの



ではなく、新しい自分を発見する旅にしてみませんか？「自分を育てる」と以外に、新しい人生の道は開けてこないように思います。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆君等には お布施の心 無さそうね
そんな目を向け 無宿猫過ぐ

☆世はメタボ 長寿検診 慣れおれど
想定外は 腹囲測定

☆検診の 吾が血も充たし 軽快に
スピッツ回る ミックスローター

☆お月様 見ていてくれる
四日市市 釈 弘 蓮

あの日のごとも 微笑ながら
四日市市 A K

☆この人生 阿弥陀様と 一緒に
ちようどよい

三重組コーラス

※十月二十五日(土)夜七時半練習

※十月八日(水)午前・陽光宛慰問

※十一月三日(月)祝午後 光了寺

※十一月十五日(土)夜 西勝寺

◇十一月二十二日の御堂演奏会(6回
目出演)。バス席余裕あり。付き添いの
参加もOKです。今年ハ八時半バス小杉
出発、九時様。

☆カンパ有難う☆

TU様・YM様・他匿名様より頂きました

☆ホットコース☆

☆8/13善正寺のホームページが公開！仏事に関する相談、お悩み等気軽にお寄せ下さい。「三重 善正寺」で検索
(<http://www.mie-zenshoji.com/>)

※「住職と坊守のつれづれ日記」がお勧め。ほぼ毎日更新。過去の日記も右横にある Archives(アーカイブ)記録保管所(2008.8月、9月をクリックすると、全て見られます。善正寺とそこに住む私達の生活を丸ごとお見せします。よかつたら下段の拍手をクリックして下さい。励みになります。

※過去一年分の善正寺だよりが全て見られます。一面の「善正寺だより」をクリック。次にファイルを再びクリック。画面を大きくしてご覧下さい。遠くに住む子供さんにもお知らせ下さい。

※「お問い合わせ・感想」をクリックして頂くとメールが送れます。できる限り返信しますので、気軽にお便り下さい。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一七八号をお届けします。◇何年前から建物の耐震度や賞味期限、産地の「偽装」が頻発したが、工業用に売却されるべき事故米が食品に回っていたという事件には驚きと共に怒り心頭です。役所の信頼も愈々失墜。◇我々は人間界にいるつもりだったが、まさに三悪道(地獄・餓鬼・畜生)の住人と実感。同時に闇を照らす光に遇う尊さ、必然性をしみじみ味わう秋。合掌。

「私は親鸞聖人の本や仏教書をたくさん読んでいます。それなのに
わざわざ本堂でお説教を聞く必要があるのか？今の時代インタ
ネットや本からも学べる。自分一人が勉強して理解できたらそ
れでええのと違つか？それに何故お念仏を唱えるのか？よう分
からん」と法座後の座談会で質問がありました。これに答えな
ければ坊守として恥しいと思いい、私なりの受け止め方を披露しま
した。「同じごちそうを食べるのに一人で食べるのと皆で食べるのと
の違いです。昔殿様が猟に出て道に迷いました。暗くなりお腹
も空いたので貧しい村人の家に入り、粗末な食事を彼等と共に
食べました。お城で淋しく食事する殿様には経験したことない
満足感でした。お寺の聴聞はこの殿様のように共感の喜びがあ
ります。お念仏は私から仏様への感謝の領収書。私の力で申すので
はなく申すにはおれない自分かいるのです。現代人は先に頭で納
得してから行動に移します。ただ信心せよ。お念仏申せ。では頭
の中を素通りするばかり。様々な手段方法でお念仏に出会え
た喜びを皆様に伝えたいと思います。パソコン世代に向けて先
月から公開したホームページ「三重善正寺」で検索して下さい。お
ススメは「住職と坊守のつれづれ日記」。ほぼ毎日更新しています。
お寺に住む私達の生活を丸ごとお見せします。また毎月発行
している「善正寺だより」も過去一年分全て見られます。遠くに
住む子供達も友人にもご紹介下さい。お寺の敷居が低くなった。困ら
ずには相談してみよう」と気軽にメルを下さい。できる限りお返事
を奉じます。深まりゆく秋にお寺で誰かに出会い、新しい人
生の一ページを開いてみませんか？皆様の協力よろしくお願ひす。
平成二十年十月 合掌 善正寺坊守拝